

TOSHIBA

東芝換気扇取付説明書(ダクト用・2部屋用)

形名
(2 部屋用)
DVP-T10L
DVP-T14L, DVP-T14LQ



販売店・工事店さま用

日本国内専用品
Use only in Japan

- この換気扇の注意事項をよく知っていただき、正しく取り付けていただくためにこの取付説明書をよくお読みください。(形名により図が一部異なります。)
- この取付説明書は工事完了後、お客様にお渡しください。
- 別売部品をご利用ください。(詳しくはカタログをご覧ください。)

安全上のご注意

●商品および取付説明書にはお使いになるかたやほかの人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

表 示	表示の意味
警告	"取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(※ 1)を負うことが想定される内容"を示します。
注意	"取り扱いを誤った場合、使用者が傷害(※ 2)を負うことが想定されるか、または物的損害(※ 3)の発生が想定される内容"を示します。

- ※ 1: 重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- ※ 2: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
- ※ 3: 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。
- 取付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、この取付説明書は取扱説明書とともにお客様で保管いただくように依頼してください。

警告	
改造禁止	改造はしない 火災・感電・けがの原因になります。
分解・修理禁止	修理技術者以外の人とは分解、修理(※)をしない 火災・感電・けがの原因になります。 ※修理はお買上げの販売店または東芝エアコン空調換気ご相談センターにご連絡ください。
アースを接続する	アースは確実に取り付ける 故障や感電したとき、火災・感電の原因になります。 アースの取り付けは販売店や電気工事店を通じ、電気工事士へ依頼してください。
接触禁止	メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属性ダクトが貫通する場合、金属性ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付ける 漏電した場合、火災の原因になります。
取付禁止	内釜式風呂を設置した住宅には取り付けない 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす原因になります。
水かけ禁止	水や洗剤などをかけたり、吹きつけたりしない 漏電により、火災・感電の原因になります。
給気を確実に	煙突排気の燃焼器具がある住宅に据え付けるときは、十分に大きな空気取り入れ口を別に付ける 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす原因になります。
交流 100V を使う	電源は交流 100V を使う 交流 100V 以外の電源を使うと、火災・感電の原因になります。

表 示	図記号の意味
禁止	○は、禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
指示	●は、指示する行為の強制(必ずすること)を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

注意	
取付禁止	浴室内には壁スイッチを取り付けない 火災・感電の原因になります。
炎禁止	炎が接近したり、あたる恐れのある場所には取り付けない 火災の原因になります。
確実に取り付ける	強度のある場所に確実に取り付ける 落下による、けがの原因になります。
確実に取り付ける	本体カバーや部品は確実に取り付ける 落下による、けがの原因になります。
取付注意	電気工事は必ず電気工事店に依頼する 電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 火災の原因になります。
手袋着用	取り付けのときは、手袋を着用する 手袋を着用しないと、けがの原因になります。

取付上のお願ひ

●次のような場所には取り付けないでください。

1. 高温(40℃以上)になる場所
①ガスレンジの真上
②ガス湯沸器の真上(横方向へ50cm以上離してください。)
③換気機能のない浴室乾燥機を使用する浴室

2. 台所など油煙の多い場所
3. 腐食性ガスの発生する場所

●点検口を必ず設けてください。

●次のようなダクト工事はしないでください。

- (1)極端な曲げ (2)多数回の曲げ (3)接続ダクト径を極 (4)排気口のすぐ近くで曲げ



- ダクトと排気口をテクスねじなどで止めないでください。
シャッターが開かなくなる原因になります。
- 地域によっては樹脂製換気扇およびジャバラが使えないことがあります。
(詳細は行政官庁または消防署にお問い合わせください。)

●共同ダクトへ排気するときには、建築基準法施行令により防火の役割を果たすものを使用することが義務づけられていますので、2mの鋼板立上がりダクトを取り付けるか、システム部材の防火ダンパーを取り付けてください。

●効率よく換気させるため排気ダクトと同じ大きさの空気の入入口を部屋の反対位置に設けてください。

●浴室と他の部屋(トイレなど)を組み合わせる使用するとき換気扇本体は必ず、浴室側に取り付けてください。換気扇本体をトイレ側に付けますと、冬期に浴室の湯気が、換気扇本体で結露し水滴が落ちることがあります。

●業務用24時間風呂のような常時湿気のある場所では寿命が短くなる場合があります。

●製品上部を断熱材などで覆わないでください。
モータの放熱が悪くなり、断熱材が溶けたり故障の原因になります。

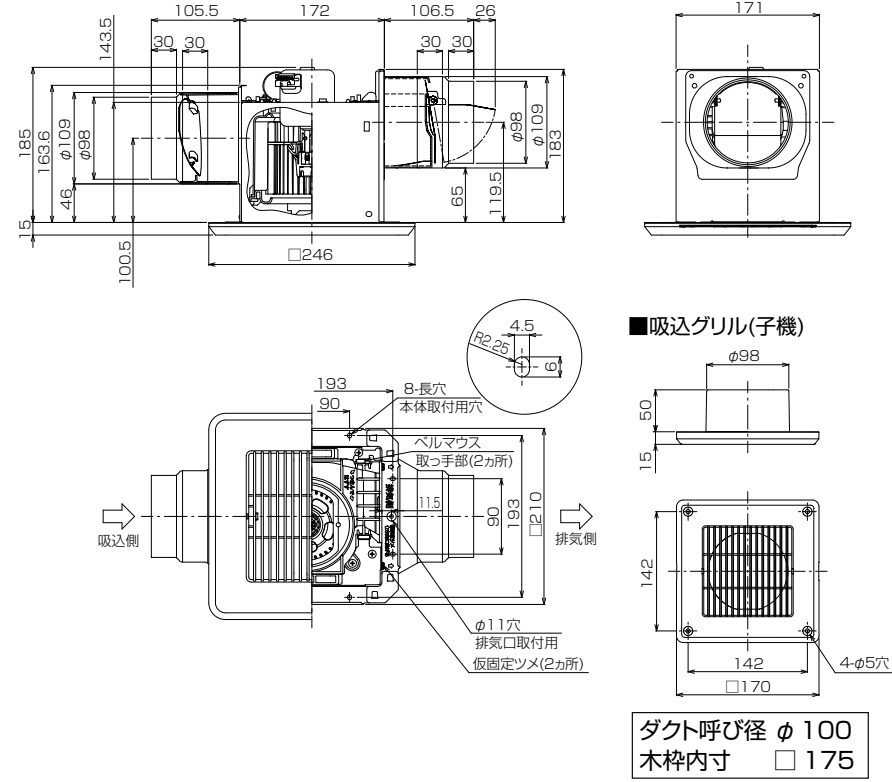
●モータに電源ケーブルが接触しないようにしてください。
モータの熱により、電源ケーブルが劣化するおそれがあります。

●傾斜のある天井面には取り付けられないでください。
シャッター開閉不良、振動、異常音の原因になります。

●浴室など湿気の多い場所では、本体カバーから水滴が落ちてても不快にならない場所に取り付けてください。

製品寸法

●DVP-T10L

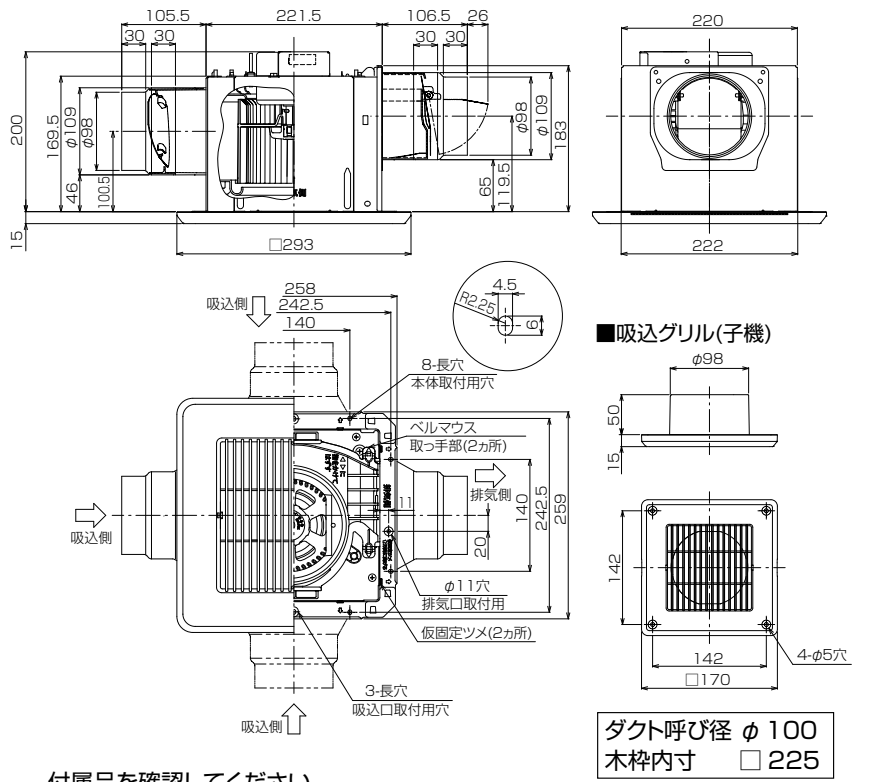


(風量比)

風量割合	タイプ	刻印	親機	子機	本体カバー開口面積(cm ²)
	T10タイプ	—	7	3	親機:54 子機:70
		A	7	3	親機:74 子機:70
	T14タイプ	B	6	4	親機:49 子機:70

※ T10 タイプは風量調整できません。

●DVP-T14L, T14LQ



付属品を確認してください

木ねじ	吸込グリル + 取付枠	遮へい版
 φ 4 × 35L 10 本	 1 個	 ※ T14 タイプのみ 2 個

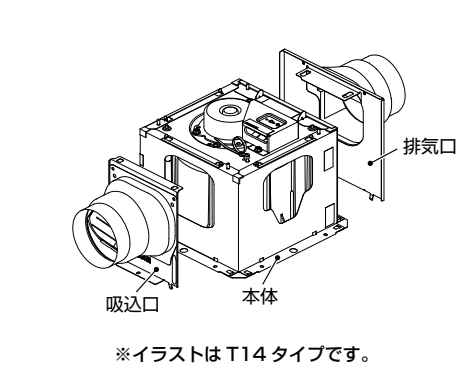
取付方法

- 取付工事前に本体に異常音、変形などの異常がないか確認してください。
- 取付時、板金部品の端面で手を滑らせると手が切れる場合がありますので手袋を着用してください。

取り付ける前に

- ◆建物および部屋の配置により、取付位置・排気方向・吸込方向を決めてつぎの準備をしてください。
※吸込方向の選択は T14 タイプのみ可能です。

①排気口と吸込口を本体よりはずします。



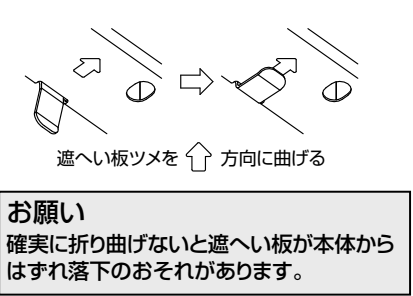
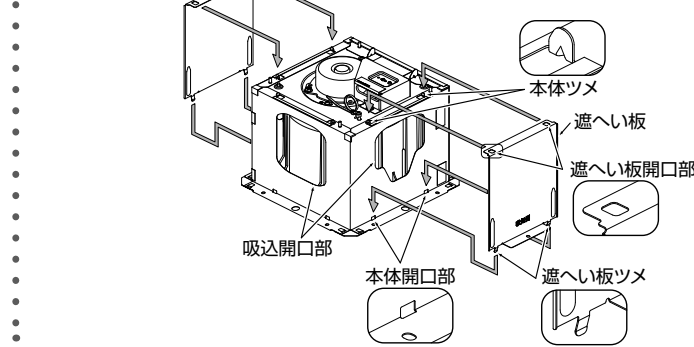
※イラストは T14 タイプです。

②吸込方向を決め、遮へい版を取り付けます。

【遮へい版の取付方法】(T14 タイプのみ)

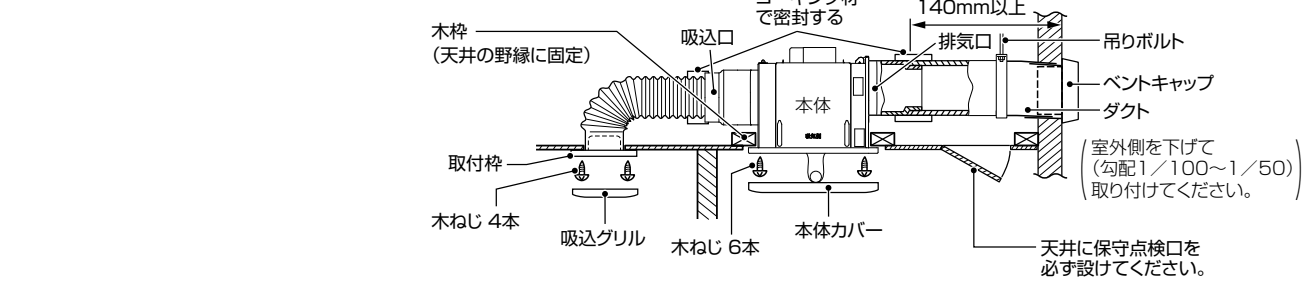
本体上部のツメ(2カ所)を遮へい板上部の開口部に、遮へい板下部のツメ(2カ所)を本体の開口部にはめこみ、遮へい板のツメ(2カ所)を各方向に確実に曲げてください。

同様にもう 1 カ所の吸込開口部にも遮へい版を取り付けてください。



お願い
確実に折り曲げないと遮へい板が本体からはずれ落下のおそれがあります。

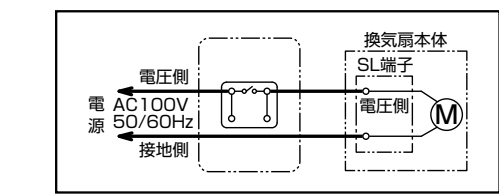
取付参考図



配線図

※太線部を結線する
◆建築基準法対応機械換気設備として設置される場合の操作スイッチは、「換気システム用壁スイッチ」を使用するなど建築基準法に従って施工してください。

結線図(太線部分を電気工事士にて結線してください) ※施工時は「結線間違い」や「異電圧印加」等の誤結線がないことを十分確認してから運転してください。



A. 木枠に取り付けるとき

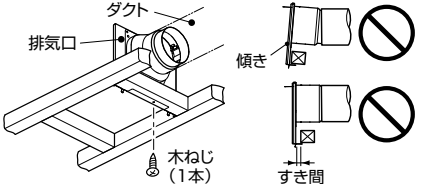
A-1 木枠内寸に合わせて木枠をつくり野縁に固定します。
木枠高さが 45mm 以下となるようにしてください。シャッター開閉不良、異常音の原因になります。

お願い 製品の質量に十分耐えるよう木枠を補強材などで野縁に固定します。

	タイプ	製品重量 (kg)	木枠内寸 (mm)	木枠高 (mm)
野縁	T10	2.3	□ 175	45 以下
木枠	T14	3.5	□ 225	
補強材				

A-2 排気口を固定します。

排気口を木枠と傾きおよびすき間がないように、内側の穴に付属の木ねじ 1 本で固定します。



A-3 本体および吸込口を木枠に固定します。

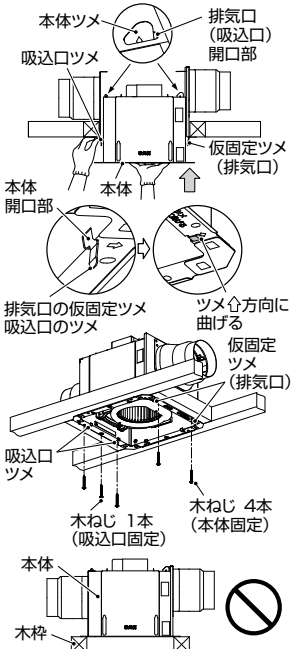
①吸込口を先に木枠にくぐらせませす。

②本体を挿入し、本体上部のツメ(2カ所)を排気口および吸込口上部の開口部に、吸込口下部のツメ(2カ所)と排気口下部の仮固定ツメ(2カ所)をそれぞれ本体の開口部にはめこみ、吸込口のツメ(2カ所)と排気口の仮固定ツメ(2カ所)を全方向に確実に曲げてください。
※吸込口のツメは、本体の仮固定では、ありません。

お願い 本体の仮止めは一時的な固定なので、仮止めのまま放置しないでください。

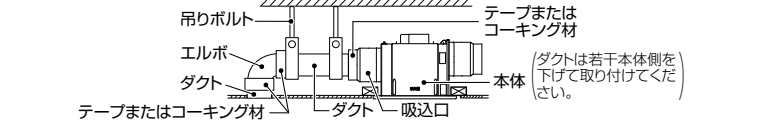
③木ねじ(5本)で、本体と吸込口を木枠に固定します。本体の固定は木枠に密着させてください。風もれの原因となります。

お願い 本体を木枠の上に固定しないでください。



A-4 換気扇本体と吸込グリルの間をダクトで接続し接続部をテープまたはコーキング材で密封します。

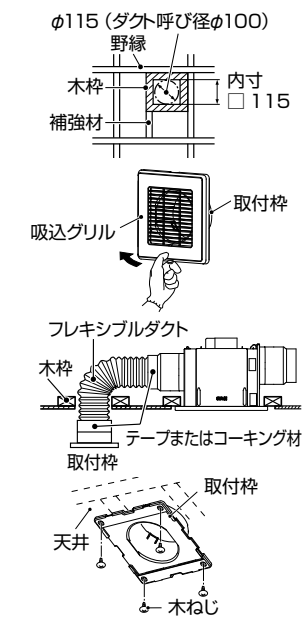
■塩ビダクトを使用する場合



お願い ●吸込口やエルボにダクトの質量が加わらないように、吊りボルトなどで保持してください。
●エルボの吸込グリル側にも必ずダクトを取り付けてください。ダクトがないと吸込グリルが取り付けられません。

■フレキシブルダクトを使用する場合

①取付枠固定用木枠をつくり野縁に固定します。
②天井板に穴を右図に示すようにあけます。



③吸込グリルを取付枠からはずします。

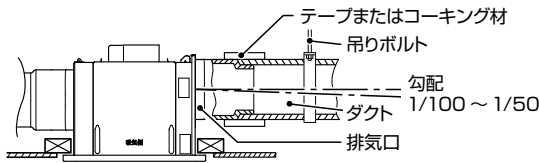
④フレキシブルダクトを木枠へ通し、室内側で取付枠と接続します。

⑤取付枠を付属の木ねじ 4 本で木枠へ固定します。

お願い 取付枠は必ず取付用木枠を作り、付属の木ねじ 4 本で木枠に固定してください。

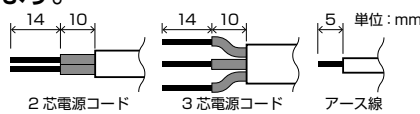
A-5 排気口にダクトをはめ込みテープまたはコーキング材で密封します。

お願い ダクトは室外側を下げて吊りボルトなどで保持してください。



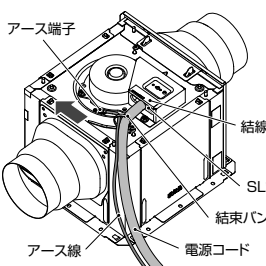
A-6 電源コードとアース線を接続します。

①電源コード(VVF φ1.6, φ2)、アース線を加工します。

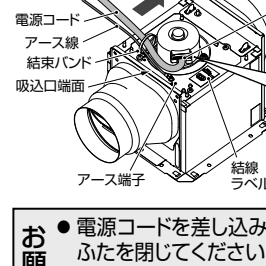


②結束バンドの輪の中に電源コードを通して、SL 端子に電源コードの芯線がとまるまで差し込んでください。結線は配線図や結線ラベルにしたがって電源コードを差し込んでください。アース線をアース端子に確実に接続してください。

【T14タイプ】



【T10タイプ】



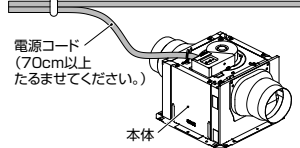
お願い ●電源コードを差し込み後、プッシングのふたを閉じてください。
●電源コードは吸込口端面(矢印部)にかからないようモーター側で固定してください。

③結線の間違いがないことを確認したあと、電源コードがゆるまないように結束バンドで図の矢印の方向に締め付けて固定してください。固定後、結束バンドの余った部分はニッパーなどで切断してください。

④電源コードおよびアース線は本体の外側付近で 70cm 以上たるませてください。

お願い スイッチ(入切)は必ず電圧側に取り付けてください。

【全タイプ】



A-7 天井板を貼り付けます。

タイプ	天井の厚さ(mm)
T10	20 以下
T14	25 以下

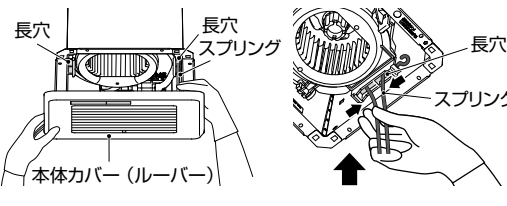
すき間 2~3mm

お願い ●本製品は本体を天井よりはずせる構造としてありますので、天井板と本体のフランジとのすき間が 2~3mm になるようにしてください。
●天井の厚さは上記にしてください。本体カバー(ルーバー)の取り付けが困難になります。

A-8 本体カバー(ルーバー)を取り付けます。

①本体カバー(ルーバー)のスプリングを指でつまんで長穴に差し込んでください。

②本体カバー(ルーバー)をそのままゆつくりと押し上げます。



天井材に合わせて本体カバー(ルーバー)の方向が変更できます。

①プッシュの先端を押して本体カバー(ルーバー)から抜きます。

②スプリングをはずし、取付位置を 90 度変更して取り付け、スプリングをプッシュで固定します。プッシュは必ず外側から挿入してください。

お願い ●プッシュを抜くとき紛失しないよう気を付けてください。
●スプリングやプッシュを取り付けるとき、向きに注意してください。逆に取り付けると本体カバーの落下のおそれがあります。

■本体側と子機側の風量調整をするとき(T14タイプのみ)

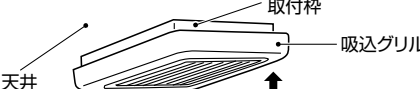
工場出荷時、風量調整板(小)は、「A」の刻印が本体カバーの「⇒」の刻印の位置にセットしてあります。風量調整板(小)を 90 度回転させてはめかえ、「B」の刻印の位置にすることによって風量比をかわることができます。

刻印	2部屋用	
	本体側	子機側
A	7	3
B	6	4

お願い 風量調整板(大)の固定用テープははがさず使用してください。

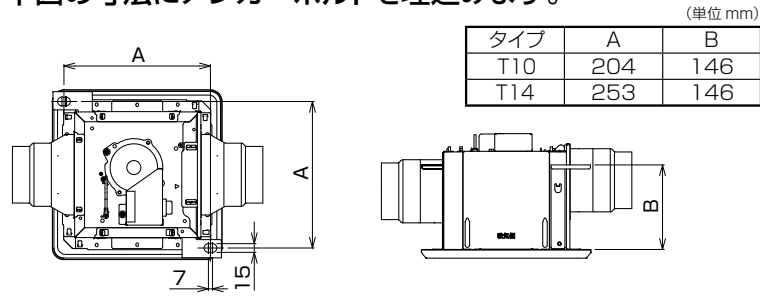
A-9 取付枠に吸込グリルを取り付けます。

吸込グリルは天井の模様にあわせて 90 度回転させた方向に取り付けることができます。



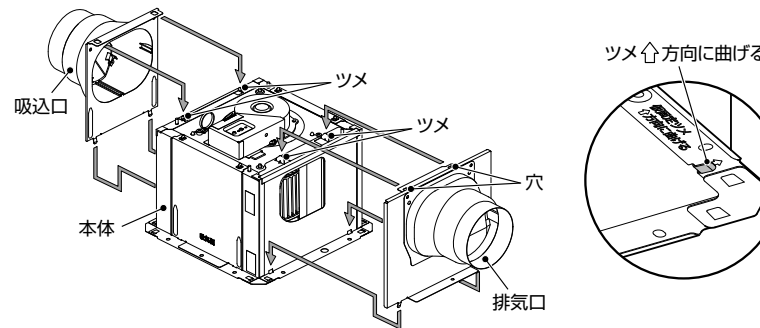
B. 吊下金具を使用するとき

B-1 下図の寸法にアンカーボルトを埋込みます。



B-2 排気口および吸込口を本体に取り付けます。

本体上部のツメ(2カ所)を排気口および吸込口上部の開口部に、吸込口下部のツメ(2カ所)と排気口下部の仮固定ツメ(2カ所)をそれぞれ本体の開口部にはめこみ、吸込口のツメ(2カ所)と排気口の仮固定ツメ(2カ所)を全方向に確実に曲げてください。
※必ず全てのツメを確実に曲げてください。



試運転

つぎの点検を行ない異常がないか確認してください。

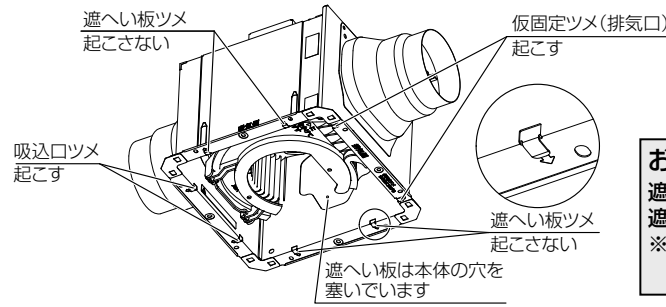
●製品の取付強度が十分ですか ●運転したとき異常音、異常振動がありませんか ●本体カバーが確実に取り付けられていますか

本体を天井からはずす場合

A-3と逆の順序で本体をはずします。

本体を固定しているねじ 4 本をはずし、仮固定ツメと吸込口のツメを起こして本体をはずします。

※T14タイプは右図について注意してください。イラストは例であり、遮へい板の付いている位置は吸込方向により変わります。(「取付方法/取り付ける前に」で記載)



お願い 遮へい板のツメを起こさないでください。遮へい板が本体からはずれ落下するおそれがあります。※遮へい板は本体 2 面に付いており左図の様に本体の穴を塞いでいます。

ご参考

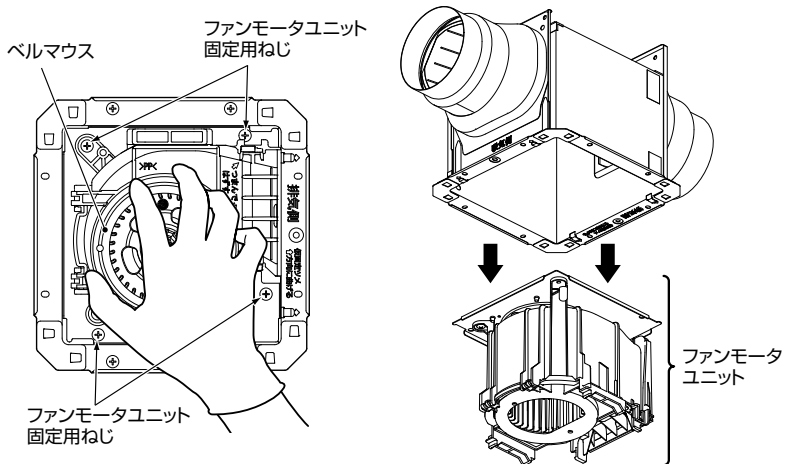
※通常は A-3 と逆の順序で本体をはずして作業し、やむをえず本体がはずせないときに行ってください。

※組立は取りはずしと逆の順序で確実に固定してください。

ファンモータユニット(電源接続部)のはずし方

●T10タイプ

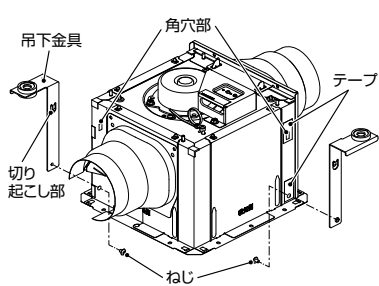
①ファンモータユニット固定用ねじ(4本)を取りはずします。
②ベルマウス部を手で押さえながらファンモータユニットを下へおろします。



お願い ●ねじをはずすとファンモータユニットが下がってくるので、ベルマウス部を手で押さえながらねじをはずしてください。
●ファンモータユニットを下におろすとき、電源コードを本体枠のエッジなどで傷をつけないように注意してください。
●羽根のブレードを持たないようにしてください。変形して異常音や振動の原因になります。
●必要以外は、はずさないでください。

B-3 吊下金具 DV-2T1(別売部品)を本体に取り付けます。

①本体側面のテープをはがします。(4カ所)
②吊下金具の切り起こし部を本体の角穴部に引っ掛けます。
③本体内側よりねじ(2本)で確実に固定します。

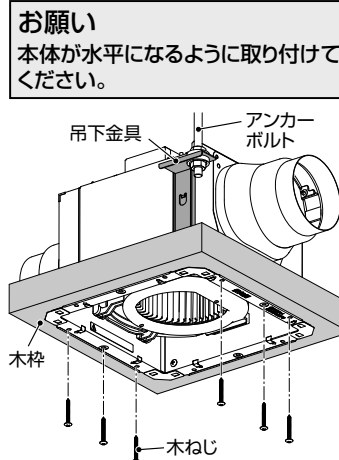


B-4 本体をアンカーボルトに取り付けます。

B-5 本体に合わせて木枠を組み付けます。

B-6 本体、排気口および吸込口を木枠に固定します。

木ねじ(6本)で本体、排気口および吸込口を木枠に固定します。



B-7 以後の取り付けは A-4・5・6・7・8・9を参照してください。以上で取付完了です。